

2021 ※5/3は開館し、4/23・5/6は休館

3/13^土→5/16^日

特別展

いもの 鋳物・モダン

— 花を彩る銅のうつわ —



栄清 龍流足芙蓉薄端 富山大学芸術文化学部蔵（大郷コレクション）

青銅製の花器は、中国において宋時代以降、生花を活けるための道具として発達しました。日本でもこれらを模倣した花器が数多く制作され、とくに近代において金属工芸のなかで大きな地位を占めるようになりました。本展では、青銅花器の源流を紹介しながら、富山大学芸術文化学部所蔵の大郷コレクションを中心に、多彩な発展を遂げた日本近代の銅花器の数々をご覧ください、近代青銅器の精緻な美しさをお伝えしたいと思います。

2021 ※7/19(月)は開館

前期 6/5^土→6/27^日 後期 6/29^火→7/19^月

特別展

ゆかた 浴衣 YUKATA

— すずしさのデザイン、いまむかし —



紺木綿地立浪文字模様浴衣 明治～大正時代（20世紀前半）個人蔵

和装離れが進む現代においても、ファンを増やしているのが夏の涼衣、ゆかたです。ゆかたは、江戸時代に入浴後のつろぎ着として着られるようになり、やがて夏の気軽な外出着として定着しました。本展では、江戸から昭和にいたるゆかたをはじめ、染めに使われる型紙や当時の風俗を描く浮世絵など、素朴でありながら繊細さを兼ね備えたゆかたの魅力を、デザイン性と遊びの要素から紐解きます。（展示替えあり）

2021 ※月曜祝日の場合は開館し、翌平日休館

9/11^土→10/24^日

企画展

木島櫻谷 四季の金屏風と京都画壇



木島櫻谷 菊花図（部分） 大正6年（1917）泉屋博物館分館蔵

明治から昭和に京都日本画界の重鎮として活躍した木島櫻谷（1877-1938）。大正時代には住友家からの依頼で天王寺の新本邸を飾る四双の金屏風を制作しました。四季それぞれの花が彩る壮麗な連作では、写生の技に加え優れたデザイン感覚が発揮されています。本展は住友コレクションのなかから櫻谷と彼を育んだ円山四条派など先人の絵画を併せて展覧します。新たに寄贈された2件の櫻谷作品もご期待ください。

2021

11/6^土→12/12^日

企画展

伝世の茶道具

— 珠玉の住友コレクション — (仮)



唐物文琳茶入 銘「若草」 南宋～元時代（13～14世紀）泉屋博物館分館蔵

茶道具には、人と人とを繋ぐ様々な物語が込められています。唐物文琳茶入 銘「若草」を入手した五代当主友純（号 春翠：1864-1926）、小堀遠州遺愛の小井戸茶碗 銘「六地藏」を手にした友親（十二代：1843-1890）、裏千家八世又玄斎好みの道具を集めた友昌（五代：1705-1758）など、住友家歴代の当主が慈しみ伝えてきた名品をご紹介します。

2021

3/13^土→5/16^日, 6/5^土→7/19^月



青銅器館 中国青銅器の時代

戊酉（かゆう）商後期・前12-11世紀



戊酉（かゆう）商後期・前11世紀

第1室

青銅器名品選

世界的に名が知られている住友の中国青銅器コレクション中でも、特に貴重かつ造形に優れた名品をピックアップし、中国青銅器の世界をご紹介します。

第2室

青銅器の種類 ～豪華な道具たち～

商周時代には高度な鑄造技術によってさまざまな種類の青銅器が作られました。儀礼や祭祀に用いられた青銅器を、種類や用途に分けてご紹介していきます。

第3室

神秘的デザイン

中国青銅器には実在の動物や想像上の獣が文様やモチーフとして表されています。神々を象徴する神秘的デザインをご紹介します。

第4室

青銅文化の展開

秦漢時代以降は鏡が盛んに作られるようになり、その一部は日本からも出土しています。鏡を中心に秦漢時代以降の青銅文化の展開をご紹介します。

第1室

青銅器名品選

第2室

青銅器の種類 ～豪華な道具たち～

第3室

中国古代の説話と文様

青銅器・青銅鏡の文様とともに、その背景となった中国古代の説話もあわせてご紹介します。

第4室

泉屋ビエンナーレ 2021

現代鑄金作家展 (仮)

この度、金工作品の新たな見方を提供するために、新進気鋭の現代鑄金作家 10 名に中国古代青銅器からインスピレーションを受けた作品の制作を依頼しました。作家ならではの視点で青銅器のおもしろさや見どころをご紹介しますとともに、鑄金作品の新たな可能性や魅力を発信します。